

「市の財政状況と経営改革」住民説明会会議録

1 会議の名称	「市の財政状況と経営改革」住民説明会
2 開催日時	平成 26 年 10 月 29 日 (水) 19 時 00 分～21 時 45 分
3 開催場所	吉野小学校 体育館
4 審議等事項	持続可能な行政運営に向けて
5 出席者名	(説明員) 佐久間市長、高橋副市長、小泉総務部長、 刈込企画財政部長 (事務局) 小柴行政管理課長、重城財政課長 (司会) 笹生総務課長
6 公開又は非公開の別	公開 ・ 一部非公開 ・ 非公開
7 非公開の理由	富津市情報公開条例第 23 条第 号に該当 (理由)
8 傍聴人数	195 人 (定員 人)
9 所管課	総務部行政管理課行革推進係 電話 0439-80-1211
10 会議録 (発言の内容)	別紙のとおり

「市の財政状況と経営改革」に係る住民説明会 会議録

発言者	発言内容
総務課長	<p>定刻を過ぎましたので、始めさせていただきます。</p> <p>本日は、夜分お疲れのところ、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>ただ今から市の財政状況と経営改革に係る住民説明会を開催させていただきます。</p> <p>今回の説明会につきましては、先の新聞・テレビ等の報道につきまして、改めて市民の皆さまにお伝えすることを目的といたしまして、小学校単位 11 地域で開催するものでございます。</p> <p>なお、あらかじめお断りいたしますが、本日は、報道機関の方も取材においでですので、ご承知の方お願いいたします。</p> <p>次に、説明の前に本日の説明員の紹介をさせていただきます。</p> <p>始めに、市長の佐久間清治でございます。</p> <p>副市長の高橋恭市でございます。</p> <p>経営改革等を主管する総務部長の小泉義行でございます。</p> <p>財政運営等を主管する企画財政部長の刈込幹夫でございます。</p> <p>申し遅れましたが、本日の司会・進行を務めます総務課の笹生と申します。よろしくご協力をお願いいたします。</p> <p>次に、説明資料がお手元にあるかご確認をお願いいたします。大丈夫でしょうか？</p> <p>次に、ご質問につきましては、市長以下説明員の説明の後にお受けいたしますので、あらかじめご了解をお願い申し上げます。</p> <p>なお、説明を含め、一応の終了時刻の目安を午後9時とさせていただきたいと存じますが、状況により変更をさせていただきたいと考えております。</p> <p>それでは、市長からご説明を申し上げます。</p>
市長	<p>夜分、お疲れのところ、また、本来であればお寛ぎの時間とも思いますが、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>この度、富津市の財政状況につきまして、新聞、あるいはテレビの報道、そして、インターネットの記事等を通しまして、住民の皆さん方に、ご不安とご心配をおかけいたしましたことにつきまして、改めて説明をさせていただきます。</p> <p>失礼して、座って説明させていただきます。</p> <p>まず、皆さま方に正確にお知らせしなければならないことは、富津市は、これまで赤字を一度も出したことはありませんし、また現在、赤字になっているわけではありません。ただ、財政調整基金を充当しているのだから赤字だろうというご意見をいただきました。</p> <p>何としても、破たんをさせません。</p> <p>今回、記者発表させていただきましたのは、このまま何もせず行政運営を続けていくと、財政状況は赤字になり、5年後に財政破たんしてしまう可能性があるということでございます。</p> <p>富津市では、これまで安全・安心のための事業を優先して行ってき</p>

たこと、また、年々増加する社会保障費、そして、税収の減少などによります収支不足が見込まれるなかでその財源不足を補うため、市の貯金であります財政調整基金を取り崩して参りました。

富津市の財政状況がこれまでと大きく違うのは、この財政調整基金が底をつき、平成 27 年度以降の赤字決算が現実のものとなったことからであります。

お手元に配布いたしました資料中段左の「収支見込みのポイント」をご覧ください。

このままでいきますと、平成 27 年度から 31 年度までの 5 年間の財源不足額は 28 億円、平成 30 年度には積み重なった赤字額が 22 億円となりまして、財政再生団体となる可能性のある極めて厳しい見込みであります。

財源不足を補うための財政調整基金残高は、わずか 2 億円であります。

これを従前の財政収支改善策や、単年度の予算査定を中心とした歳出削減などの取り組みだけでは、この状況を克服することは困難であります。

そのために、これまでの財政運営だけに目を向けた改革ではなく、行政運営全般を見直す経営改革を断行するものでございます。

次に、資料最下段の四角の枠、経営改革内容をご覧ください。

これまで皆さんからお問い合わせをいただいておりますけれども、基本的に住民サービスは適正に維持して参ります。

まず、「①将来に向けての財政基準の作成及び実行」ですが、ここにお示ししました取組みを中心とした経営改革のための具体的なプランを策定するとともに、これまで財政調整基金を取り崩して財源としてきた富津市の財政運営を反省し、当該年度の歳入をもって歳出を賄うなど財政規律を厳格化して参りたいと考えております。

次に、「②公共施設の見直し」ですが、現在の危機的な財政状況を招いた大きな要因は、多くの公共施設を建設する際に、財源とした起債の償還額とその維持管理費の増大にあるといえます。市として真に必要な施設だけを将来世代に良好な状態で残し、それ以外の利用度の低い施設や、維持管理費の高い施設などにつきましては、売却、あるいは広域化などを積極的に進めて参りたいと考えます。

次に、「③事務事業の聖域なき抜本的な見直し」、「1 税収の確保」ですが、今後、税収の増加が見込まれない状況のなか、引き続き、滞納処分により税負担の公平性の確保をして参りたいと考えております。

「2 職員数の削減」ですが、現在の危機的な財政状況を回避するには、まず、内部経費を削減することに全力を尽くさなければなりません。歳出の大きな部分を占めます「人件費」の割合を削減することは当然であり、職員数の大幅な削減を実行して参りたいと考えております。

「3 行政サービスの見直し」であります。サービス水準を維持しながら、公共として将来にわたって提供すべきサービスの範囲はどこ

までか、あらためて考える時期に来ていると思います。民間に任せるべき事務も多くなってきておりますし、サービス提供のあり方は多様化しておりますので、公共の直接行うべき範囲、民間に委ねるべき範囲を考えあわせ見直していきたいと考えております。

「4 受益者負担の見直し」ですが、行政が、特定の方を対象とし、サービスの給付をする場合、無料ないし過度に低廉な料金で提供することは、公平性の観点から望ましいものではないと考えます。行政サービスのコスト負担について、どこまでを「受益者負担」とするのか、見直して参りたいと考えます。

「5 民間活力の活用」ですが、行政サービスを受ける住民の皆さんにとっては、サービスの質が保証されることが一番重要であり、それが担保されれば、民間が供給する方が効率的である場合が多く見受けられます。行政サービスのなかでも、民営化・民間委託化が可能な分野は、費用対効果を考慮し、積極的に推進し、効率的なサービス提供を図って参りたいと考えております。

次に、資料下段右の「富津市経営改革会議」をご覧ください。

これら経営改革の内容を話し合うため、有識者で構成する「富津市経営改革会議」を設置いたしました。

今月 31 日の第 1 回会議をはじめといたしまして、議論していただくこととなります。

最後に、この経営改革につきましては、私が先頭に立ち、職員一丸となって断行して参ります。

皆さまの更なるご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げ、説明を終わらせていただきます。

次に、これまで 10 回説明会を開いてきているところでございますけれども、その説明会のなかでありました主な質疑内容につきまして、ご報告をさせていただきます。皆さん方に資料がなくて申し訳ありませんが、お聞きいただきたいと思います。

まず、今回の報道関係について、「どうして夕張市と同じや破たんの報道が出たのか」、ということですが、先ほども申し上げましたとおり、財政調整基金残高が、底をついたことから、3 か月ごとに定例記者会見を開催しているわけですが、去る 8 月 29 日の定例記者会見におきまして、経営改革の取り組みのなかで、中期収支見込みを発表いたしました。

この説明では夕張のようになります、あるいは、破たんしますというような記者発表をしたわけではございません。このまま何もしなければ、5 年後には財政再生団体のレベルに達してしまうので、今の段階で抜本的な改革を実行すると発表いたしました。その際、財政再生団体の説明で、夕張市を例にしてお話ししたのは事実でございます。これが報道機関によって特別にクローズアップされたところというふうに思います。

次に、「イメージダウン回復の戦略」ということですが、当然のことながら、できるだけ早く財源不足を解消し、そのことを住民の皆さんにお知らせできるように、経営改革を断行して参ります。また、

この間につきましても、改善状況をお知らせして参ります。

次に、財政状況について、「身の丈にあったというのはどういう意味か」ということですが、歳入の一般財源の規模をもって、すべての経費を賄うということですが、具体的には、中期収支見込みで見込んだ一般財源 110 億円程度を見込んでおります。

次に、「固定資産税が減少するのはわかっていたのではないか」「計画の段階で先が見えなかったのか」ということですが、これまで市では 5 か年計画をはじめ、さまざまな計画を策定して参りました。その間リーマンショックや、あるいは、東日本大震災、また、障害者自立支援法など国の制度の相次ぐ見直し等の特殊要因があったこともありますが、それにせよその計画が結果的に過大であったことは、真摯に反省しております。

次に、「市税の滞納額も財政悪化の要因では、徴収を強化すべきではないか」ということですが、今までも増し、滞納処分を強化して参ります。

次に、「国保などの社会保障費の増加は県や市町村の問題ではなく、国への提言を怠っているのではないか」ということですが、これにつきましては、全国市長会などとおしまして、強く国へ申し出ているところでございます。

次に、経営改革関係につきまして「経営改革での具体的な見直し対象は」ということですが、普通建設事業費のうち未着手事業につきましては、例外なく見直しして参ります。着手済みの事業につきましても、その効果を再検討し、見直しして参ります。

職員数につきましては、抜本的にスリム化します。

公共施設につきましては、適正な水準に保ちます。

財政状況が厳しいからと言って、介護、国保のような法定サービスは安定した状態で運営を行います。

個人の市民税・固定資産税などの普通税を引き上げるようなことは当然ながらいたしません。

次に、「学校統廃合にこれだけ時間を要している状況で、経営改革を短期間で断行できるのか、全てをゼロベースで見直さなければならない」ということですが、関豊小、環小が来年度から合併になります。市側の意見だけでは進められませんけれども、現在教育委員会・教育部の方で計画に則って、他の学校につきましても、順次地元の意見を聞きながら、進めていきたいというふうに考えております。

また、経営改革は短期的なもの、中・長期的なものとの区別して進める必要がございます。経営改革会議はこれら市の考え方を提示いたしまして意見をもらうかたちとなります。

次に、「改革にあたっての削減目標額は」ということですが、まずは、来年度予算で 3 億円の赤字を解消する、最終的には、今後 5 年間で 28 億円の赤字を解消するとともに、災害等に備え、できるだけ財政調整基金を積み増して参ります。

次に、「どんな事業をやめるのかはつきり示してほしい」ということですが、経営改革プランを作成するなかで、また、経営改革

会議で議論していただきながら、示していきたいと考えております。

次に、「特別職報酬と一般職の給与削減は実施しないのか」ということですが、現在私が 15%、副市長が 14%、教育長が 13%の報酬削減、また、一般職は 4%の給与削減などを実施しておりますが、特別職につきましては、更なる見直しを実施して参ります。

次に、「震災時の状況から、職員数削減以前に事務事業の見直しを優先すべきではないか」ということですが、当然、事務事業の見直しは実行して参りますが、並行して我々が標準と考える職員数まで削減を実行して参ります。

次に、「経営改革会議はどのような人で何名か」ということですが、大学教授 2 人、公認会計士 1 人、会社社長 1 人、県庁職員 O B 1 人の合計 5 人です。

次に、「経営改革会議委員に市民を入れないのはなぜか」ということですが、客観的な視点から富津市の状況について議論していただくことを考えまして、今回は、ただ今申し上げました外部有識者 5 人に委員をお願いするということといたしました。

次に、その他につきまして、「議会の取り組みは」ということですが、執行部とは別に、議会自ら、いろいろな角度からの改革を検討されているとお聞きしているところでございます。

次に、「市民との対話の機会が少ないのではないか」ということですが、過去対話集会は何度か実施して参りました。今後も、他のテーマを含めまして、機会を作って市民との対話集会をしていきたいと考えております。

「市長の決意表明は」ということですが、現在の財政状況を回復させることが私の使命であります。私の任期中できるだけ早く住民の皆さんにより報告ができるよう、経営改革を断行して参ります。

破たんはさせません。

以上、今までの説明会でありました、主な質疑内容でございます。以上で報告を終わらせていただきます。よろしく願い申し上げます。

総務課長

続きまして、補足説明を副市長及び両部長からご説明申し上げます。

副市長

改めましてこんばんは。

本日は、大変お疲れのところ、このような時間に大勢の皆さまに、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

まず始めに、私どもの経営改革の取り組みにつきましての記者会見、それを取り上げたマスコミ報道によりまして、皆さんに大変なご心配をおかけしておりますこと、心からお詫びを申し上げますところでございます。

大変失礼ですが、私も説明は着座にて進めさせていただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

ただ今、市長が申し上げました経営改革の取り組みにつきましては、市長の命を受けまして、私の指示により、市役所全庁を挙げ、取り組みを始めております。市役所内部に関することにつきましては、あら

企画財政部長	<p>ゆる事務事業を広い視野と、あらゆる可能性を諦めることなく、見直し、確認することを指示いたしますとともに、職員の提案や意見も取り入れ、作業に入らせていただいております。また、今後につきましては、経営改革会議のご意見を伺いながら、経営改革全般の方向性を取りまとめて参りたいと考えております。</p> <p>差し迫りまして来年度予算につきましてでございますが、できるものから即実行して参ります。</p> <p>本日は、この後、財政状況につきましては、企画財政部長から、これまでの行政改革の取り組みにつきましては、総務部長から説明をいたしますので、お聞き取りいただきますよう、お願い申し上げます。</p> <p>皆さまにおかれましては、今後の経営改革断行にご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。</p> <p>先ほど市長から「市の財政状況」につきまして説明いたしたところでございますが、私からは「このような財政状況に至った原因」につきまして、補足させていただきます。失礼ですが着席させていただきます。</p> <p>本市では、平成 11 年度になります。それ以前の事業の借入金によりまして、債務が増大したことから「財政非常事態宣言」をいたしました。</p> <p>そこで、債務を減少させ危機的な状況を回避するために、同じく平成 11 年に「財政健全化計画」を策定いたしまして、これに基づく財政の健全化に向けまして計画を実行し、その効果によりまして債務が減少したことから、平成 17 年度に「財政非常事態宣言」を解除しまして、その後もそこで定めました、財政収支改善策を恒久的なものとして取り組んできたところであります。</p> <p>しかしながら、昭和 60 年から続きます生産年齢人口の減少や、また長引く景気の低迷によりまして個人・法人市民税の減収や、また本市の税収の根幹であります、固定資産税の大幅な減収に加えまして、生活保護者の増加や、また高齢化の進行によりまして障がい者や、介護を必要とする方々が増加いたしまして、扶助費などが、毎年増え続け、年々財政運営は厳しさを増しております。</p> <p>このような状況のなかで、歳入の減少に対応いたしました職員の定員管理を中心といたします総人件費の抑制も不十分であったこと、また、近年、市の貯金であります財政調整基金などを活用いたしまして、総合計画をはじめといたします様々な計画に基づく事業を行ってきたところですが、その計画が結果的に過大であったことも、今般の状況に至った原因と考えております。</p> <p>最後になりますが、今回公表させていただきました、来年度の財源不足額は、3 億円ではありますが、夕張市の場合は、不足額が当市の 200 倍ですので、当市とはまったく異なり、比較になりません。</p> <p>この経営改革の実行によりまして、十分回復可能な数字であることをご理解いただければと思います。</p> <p>以上で説明を終わらせていただきます。</p>
--------	---

<p>総務部長</p>	<p>よろしくお願ひいたします。</p> <p>私からは、今まで取り組んで参りました財政健全化対策、財政収支改善策、行財政改革につきましてご説明をさせていただきます。着座にて失礼させていただきます。</p> <p>まず、財政健全化対策でございますが、平成 5 年度から財政非常事態宣言の平成 16 年度まで実施して参りました。また、財政非常事態宣言を解除いたしました、平成 17 年度からは財政収支改善策を実施して参りました。</p> <p>これに並行いたしまして、行財政改革を、平成 11 年度から 15 年度までを第一次、平成 16 年度から 21 年度までを第二次とし、平成 22 年度から 24 年度までを第三次として推進して参りました。</p> <p>まず、歳入確保策といたしまして、各種基金の設置目的に沿った処分や、未利用地の売却処分などがございます。未利用地の売却処分につきましては、現在も引き続き実行しております。</p> <p>次に、人件費の削減といたしまして、職員数の削減、特別職の報酬カットや職員給与の昇給延伸などの抑制、手当の引下げ、議員等の定数削減や手当の見直し、学校用務員や調理場調理員の非常勤化などがございます。</p> <p>次に、維持管理費などの削減といたしまして、市営バスの廃止や、公共借地の見直しなどがございます。</p> <p>最後に、補助金や交付金などの削減といたしまして、補助金等の見直しを実施してまいったところでございます。</p> <p>これらの総合計といたしまして約 117 億円の削減をいたしたところでございます。</p> <p>誠に簡単ではございますが、以上で説明を終わらせていただきます。よろしくお願ひいたします。</p>
<p>総務課長</p>	<p>説明の方が終わりました。</p> <p>これからご質問をお受けいたします。ご質問につきましては、恐れ入りますが、挙手にてお願ひいたします。</p> <p>それでは、ご質問ございますでしょうか。</p>
<p>(市民①-1)</p>	<p>市長の退職金はいくらですか。</p>
<p>総務部長</p>	<p>退職時点の計算となりますのでこの場ではお答えできません。</p>
<p>(市民①-2)</p>	<p>この財政状況で、市長は退職金を受け取るつもりですか。</p>
<p>市長</p>	<p>今の段階で退職金の受け取りについては申し上げられません。</p>
<p>(市民①-3)</p>	<p>状況に応じてということでしょうか。</p> <p>続いて、職員の早期退職を勧めるとのことですが、かえって財政を圧迫する事態にはなりませんか。</p>

<p>総務部長</p>	<p>早期退職は、勸奨退職として既にある制度です。財政を圧迫することにはならないと考えています。</p>
<p>(市民①-4)</p>	<p>その場合に、退職金を上乘せすることはありますか。</p>
<p>総務部長</p>	<p>そのようなことはありません。</p>
<p>(市民①-5)</p>	<p>最後に、財政調整基金の残高が底を突いている状況ですが、万一災害があった際に十分に対応できるのでしょうか。</p>
<p>企画財政部長</p>	<p>今年度も災害が既に発生しています。国や県の事業もありますが、当初に予測ができない場合のために残高は積み増ししたいと考えています。</p>
<p>(市民①-6)</p>	<p>今現在で早い対応は難しいでしょうか。</p>
<p>企画財政部長</p>	<p>その規模によると思いますが、単年度だけでは対応できない事態も考えられます。国や県の支援を含めたトータルでの災害支援になると思います。</p>
<p>(市民①-7)</p>	<p>すぐに財政出動ができない可能性が発生する前に、食い止めることができなかつたのか不思議でなりません。 また、要望として、どこの地区でも不安をぬぐい切れていないと思いますので、できるだけ早く議事録・補足説明を明確にお願いします。</p>
<p>(市民②-1)</p>	<p>現状の厳しさを正しく認識し、責任をはっきりしてほしいです。 徐々に財政調整基金を取り崩していたのであれば、誰かが、この異変に気づき、対策を講じるべきでした。過去数年の税金の使い方の是非を含めて責任を信に問いてほしいです。市長が市民に問う意思があるか確認したいです。市長の最も重要な仕事は市民の生命と財産を守ることであり、それを担保にしています。今回の事態は市の財産価値を著しく低下させたこととなります。財産を守るという責任を果たしていません。この公表にどんな意図があったのか疑問です。市民の生命を守るという意味でも重大な責任があります。富津市の信頼を著しく低下させた責任の所在をはっきりして、赤字に転落しないよう確実に仕事をするためには、民意で選ばれた人が進めるべきです。再度、市政に臨む態度を市職員・市民に示すことがトップのあるべき姿だと思います。民意を通じて仕事を進めるのであれば市民ももっと安心すると思います。</p>
<p>市長</p>	<p>民意を問うという話ですが、この赤字を解消するために、来年度の赤字をゼロにし、今後の赤字をなくしていくよう取り組みます。私の任期はあと 2 年ありますので、そのなかで経営改革の形を作ってい</p>

<p>(市民②-2)</p>	<p>ります。民意を問うのはその後になると思います。任期中は力いっぱい進めて参ります。</p> <p>次に、この問題と「核のゴミ」受け入れによる財政支援が並行していることに疑問があります。きっぱりとこの 2 つの結びつきを払しょくするために、条例や憲章で汚名返上の意味合いも含めて全国にアピールしてもらいたいです。千葉県には中小レベルの放射性廃棄物が多量に保管されており、その処分が問題となっています。富津市に持ち込まれない保証はありません。財政ひっ迫を理由にして富津市が処分場候補地に手をあげるのではないかと多くの市民が疑っています。湊では副市長がきっぱりと「可能性はありません。」と答えました。市長はどのように思っておりますでしょうか。この会場で市長以下再度考えて答えていただきたいです。環境部門の部長・課長にも聞きたいところですが、代表して市長に回答をお願いします。</p>
<p>市長</p>	<p>指定廃棄物候補地の関係については、県内市町村長会議が 3 回ありました。私は、「県内 4 か所の産業廃棄物処理場のうち 2 つが市内にあるため、もし指定廃棄物を受け入れるのであれば県内平等に引き受けてもらいたい。富津市は 2 つもあるのでそのような施設は必要ありません。」と述べております。現在、市内を候補地にするというような話は聞いておりませんし、また会議がありますが、再び、三度、「処分場は必要ない」ということを申しあげて参ります。</p>
<p>(市民②-3)</p>	<p>財政問題と指定廃棄物の問題は全く別個にとらえてもらい、核の持ち込みをしないという思いを、富津市には平和都市宣言や富津市民憲章があるわけですから、憲章の追記として、たった今市長が言われたような事を明記し、約束してほしいです。案として、『『美しい海と山にかこまれ、緑と太陽に恵まれた、文化遺産豊かな歴史のふるさと』を後世に引き継ぐために、核物質の搬入をいかなる要請があっても断固拒否します。核物質の処分場はいかなる低レベルであってもこれらの建設を認めません。』というような文面を追加してほしいです。そうすれば、財政問題と指定廃棄物の結びつきという疑念は晴れると思います。</p>
<p>市長</p>	<p>市民憲章に追記する場合には、富津市民憲章推進協議会に諮りたいと思います。</p>
<p>(市民③)</p>	<p>滞納額が 2,000 万円以上の市議員が 1 人います。そして滞納額が 1,000 万円以上の市議員も 1 人います。また、市議員は 5 人も病気で、月 2 回程度しか出ていないにも関わらず、年間 750 万円の報酬があります。それも削減してください。市長も削減してみてもどうでしょうか。3~4 年前から「赤字になる」という話はあるはずですが。</p> <p>それから、公共施設を多く造り過ぎです。みんなお金がどっかに行ってしまう。市の幹部や財政担当は知っているはずですが。みんな</p>

<p>市長</p>	<p>税金です。市職員も給料を減らしてください。退職金の話も隠さないでちゃんと話してください。道路はでこぼこで、何十年も働いて税金を納めています。あなたたちが給料を減らしてください。隣の君津市も新日鉄と住金の合併でおかしくなっていて、そのしわ寄せがやってきます。その前に何とかしてもらわないと困ります。</p> <p>給与削減については、具体的な数字は申し上げられませんが、私を含めて下げる方向で進めております。</p>
<p>(市民④-1)</p>	<p>中期収支見込みについて、赤字が 28 億円とのことですが、その規模を確認したいので、市内の世帯数で割ると 1 世帯当たりいくらになりますか。</p>
<p>総務部長</p>	<p>1 人当たりだと約 6 万円で、現在は 1 世帯 3 人程度になりますので、おおざっぱな数字ですが約 18 万円になります。</p>
<p>(市民④-2)</p>	<p>中期収支見込みの年度あたりの赤字額は歳出に対して約 5%だと思います。家計であれば支出を我慢することになると思いますが、この 5%という数字は経営改革会議を持たなければ削減できないものですか。赤字が見込まれるたびにこうした会議を持たなければいけないとなると、市内部の自浄作用はないのでしょうか。</p>
<p>企画財政部長</p>	<p>市の財政構造として、税収などの一般財源が人件費・扶助費・物件費に大半を消費するなかで、近年、財政調整基金を取り崩してきた結果このような事態になりました。財政構造自体を改めるには事業全体を見直しして、子供たちの未来のためにも今後の赤字をゼロにする必要があります。</p>
<p>(市民④-3)</p>	<p>例えば、人件費について 5%削減するつもりはありますか。</p>
<p>企画財政部長</p>	<p>本年度の例ですが、当初予算編成時に特別職・一般職の地域手当 4%を削減し、そして市議会にも 4%の報酬削減をお願いしたところです。</p>
<p>(市民④-4)</p>	<p>経営改革会議にあたっては、誰かが改革案を作成済みでないとなり立たないと思いますが、どのような案を考えていますか。</p>
<p>企画財政部長</p>	<p>現在行っている予算編成でも、既に事務事業の見直しを各部署に指示しています。これについて経営改革会議でも意見をいただき、来年度予算の赤字解消と事務事業の見直しを並行して行っています。</p> <p>具体的な案は今後も詰めて参ります。</p>
<p>(市民⑤-1)</p>	<p>浅間山の砂利採取跡地について、事務事業評価シートで既に約 1 億 7,000 万円を投じており、今後 3 年間で約 9 億 6,000 万円かけてバスストップを作るようですが、これを中止または延期すれば平成 27 年度・</p>

	<p>28 年度の赤字は解消できると思います。木更津市は新庁舎の建設は延期しましたが富津市の中止・延期の意向はありますか。</p>
<p>企画財政部長 (市民⑤-2)</p>	<p>既存の事業についても、事業の効果を再検証し、経営改革会議にも諮って判断したいと考えています。</p> <p>計画のなかで、負担が大きく不採算と判断したにもかかわらず去年から事業を開始した理由を教えてください。</p>
<p>企画財政部長 (市民⑤-3)</p>	<p>事業の効果について、佐貫以南の人口減少が特に大きいなかで、鉄道輸送を補てんする役割として、竹岡～湊間で国道 127 号に降りている高速バスを直接乗り降りできるバストップにすることで、便数増加や羽田・千葉方面の新設が見込まれるなかで推進したいと考えております。</p> <p>計画をみると 30 便から 120 便とありますが、25 日の説明会では、負担金の観点から大貫～君津の路線バスを取りやめるといった話があったように、便数が増えてもその採算が見込めない場合は、バス会社が全額負担するのかそれとも市も負担するのか教えてください。</p>
<p>企画財政部長 (市民⑤-4)</p>	<p>バスの運行そのものに対して市の負担はありません。</p> <p>将来的に負担する可能性はありますか。</p>
<p>企画財政部長 (市民⑤-5)</p>	<p>停留場の確保などの負担はあると思います。</p> <p>駐車場を併設する場合の土地の扱いは賃貸と購入のどちらですか。また、この費用は 11 億 3,000 万円の事業費に含まれていますか。借りる場合は賃貸料も発生すると思いますが、その費用はいくらになりますか。</p>
<p>企画財政部長 (市民⑤-6)</p>	<p>バストップ本体が約 5 億円で、総事業費には鹿野山方面への市道整備と駐車場整備も含まれます。国の交付金を確保するなど、財源が課題になります。</p> <p>先ほど、市長が公共施設の見直しをすと言っていました、作ったままではいいが負担が増えたというのでは本末転倒です。</p> <p>そして、浅間山について、100 ヘクタールはメガソーラーで、残りの 100 ヘクタールについても計画があった上で、バストップを考えているのでしょうか。それともバストップは単独の事業でしょうか。</p>
<p>企画財政部長</p>	<p>浅間山の地権者は、大半がかつて砂利採取をしていた事業者であり、地権者側の意向もありますが、その了承を得たうえで、償却資産として税金が見込めるメガソーラーができました。これを呼び水として、</p>

<p>(市民⑤-7)</p>	<p>観光振興も見据えた周辺整備によって、雇用や交流人口を増加させたいと考えています。</p> <p>最後に、意見として残りの 100 ヘクタールを不動産業者や地権者と協議したうえで、木更津のほたる野のような新興住宅地にできればいいと思います。100 ヘクタールでしたら 500 軒程度できますので、2,000 人の人口増が見込めると思います。市の皆さんには市民に明るいビジョンを見せてほしいです。経費削減だと縮小に向かいがちなので、他の場所でもかまいませんが、「富津市をこういうまちにしたい」という思いで、人口や雇用を増やし、税収が増えるというビジョンを強く打ち出してほしいです。</p>
<p>(市民⑥)</p>	<p>経営改革について説明がありましたが、この内容で持続可能な経営改革ができるとは思えません。最も重要な将来を見据えたビジョン、魅力ある富津市のまちづくりの立案が抜けているからです。不名誉な事情を全国に晒してしまった今、市長や市の一部の人間だけで作成した改革案では再生ができないと思います。将来性が見えない状態では、若い人はみんな出て行ってしまいますので、市民総出で対策する必要があります。市職員や専門家がそれを考えるのは大切だと思いますが、市民の知恵や技術、若い人の考え方や力など、今の富津市に眠っている財産ともいえるものを掘り起こす必要があると思います。市でできるあらゆる可能性をピックアップし、それらをコントロールすることで市民に力を結集し、再生のビジョンを構築するのが行政の皆さんの仕事だと思います。その結果として人が集まるまちになるのではないかと思います。</p>
<p>市長</p>	<p>若い人をはじめとした市民の皆さんの意見を聞きながら、というご提言ですが、先ほどの浅間山の宅地開発についても、そういった考え方が地権者側にもあるかもしれませんので可能性を模索したいと考えております。市民一丸となってご意見を伺いながら、夢のあるあるいは着実な市政を進めて参りたいと思います。安全・安心な、安心して子育てできるまちを作っていこうと、現在も人口流出の阻止と定住促進のために定住奨励制度もあります。これを含めてより良い富津市づくりを進めたいと思います。</p>
<p>(市民⑦)</p>	<p>まず、市の取り組みとして、事業の抜本的な見直しと職員数の削減とあり、職員の退職とともに新規採用を抑制するとのことですが、新しい施策や立案を考えるのであれば、新しい考えを持つ必要があります。若い人の意見を聞く必要があると思います。</p> <p>二点目は、民意で選ばれた市長が自らの給与を 15%削減するのであれば、同じく民意で選ばれた市会議員の皆さんも対等な取り組み・姿勢を自発的に見せる必要があると思います。</p> <p>さらに職員給与に関連して、県内のほかの自治体とバランスをとっている旨の説明がありましたが、役職定年制などで本質的な改善をし</p>

	<p>てほしいです。若い人の方が、フットワークが軽いと思いますので、その方たちに市民をもっと巻き込んで意見を聞いてほしい。我々も市議員という代表がいますが、この事態についてあまりお話を聞く機会もなかったと思います。</p> <p>別の話になりますが、ごみの分別収集に関して、君津は早くから細分化していました。ごみは分別をすれば資源になりますので、我々も協力できることだと思います。もっと早くから分別の徹底をすれば良かったのではないかと思います。今後は我々ももっと厳しく取り組む必要があると思います。</p>
(市民⑧-1)	経営改革会議自体はどのくらい費用がかかりますか。
総務部長	日当として 1 人あたり 12,000 円で、予算化したものは 50 万円あります。
(市民⑧-2)	議会の議決は経ていますか。
総務部長	ご承認いただいています。
(市民⑧-3)	ここに市議員はいないのですか。冗談じゃありません。 では、市長にお聞きします。自分たちでできずに、経費をかけて手を借りるのは筋が違うと思います。自分たちに能力がないのであれば辞めるのが本筋ではないですか。
市長	我々も検討して行っております。それを、外部の違う見方で検討してもらって生かしていくのが一つの方法です。我々の考えていることに対して、答えをいただいて検討するというご理解いただきたいです。
(市民⑧-4)	その趣旨は理解できます。しかし、市民の税金から経費を出すのではなく、議会を通ったのであれば議会と執行部で賄っていただきたい。前回の同様の事態の時は、市民と一体となって改革するとお聞きした記憶がありますが、いかがでしょうか。
総務部長	自分たちでやれという意見は各会場でお聞きします。庁内の各部署で平成 27 年度の予算を組むために努力しているところです。 以前の懇談会の折には、区長さんの代表や市民の皆さん向けに行いました。今回は、今後の財政規範を恒久的なものにするために、外部有識者のご意見・ご提言をいただいて実行したいと考えています。
(市民⑧-5)	今は世界中からインターネットで情報が取れる時代です。そもそも、自分たちのまちは自分たちで再生するのが本来の姿ではないですか。議会を通過しているのであれば、議会は責任逃れをしていると思います。

総務部長	おっしゃる通り、自分たちでやるのが当然です。それにノウハウを持った方々のご意見・ご提言があればそれを市職員が見直して参ります。
(市民⑧-6)	先ほど、市長はこの報道は本来の意図とは違うと話していましたが、結果的にデメリットが発生しています。富津市に住もうとしている人が来なくなります。議会も市長も「定住人口を増やす」と言っていますが、この状態で増えるわけがありません。この状態は、新しい政策を早く打ち出さないと打開できないと思います。先ほどからあれこれしますと言っていますが、いつやるのかを明言していません。これで回答になっていますか。
総務部長	まず、収支見込みで出している、来年度予算の 3 億円の赤字見込みを解消し、プラスに転じさせることを短期的なこととして考えています。景色が素晴らしい富津市であります。この報道でイメージがダウンしたことは申し訳なく思っております。それを一日でも早く回復させることを使命として頑張っております。
(市民⑧-7)	富津市を人生の最後の住まいにしようと考えている人が、こんな回答で来ると思っているのですか。具体的な再建の目処や新しい政策を打ち出さなければ、東京や横浜の人に情報は入っていきません。 今日で 11 回目の説明会だそうですが、いろんな意見が出たと思います。今回、説明した 4 人の方々に説明会の感想をお聞きしたいです。
市長	市のイメージダウンについては、大変申し訳なく思っております。なんとか、早い段階でイメージダウンを解消し、アップに転じたいと考えています。また、今までの事務事業に関しても甘かったのではないかとご指摘を受けまして、反省しております。
(市民⑧-8)	いつまでに何をやるのか明言してください。
市長	任期の間に精一杯頑張っておイメージダウンを解消し、5 年分のマイナスを 2 年でというわけにはいきませんが、年々解消できるよう取り組みます。
(市民⑧-9)	市長は 10 年前から「身の丈に合った」と広報紙や議会の答弁で発言しています。その発言どおりならこんな事態になっていないと思います。
市長	これまでの間に身の丈に合わなかった部分があるということになります。計画が大きすぎた部分があったと思います。
(市民⑧-10)	同じような回答ばかりですね。他の 3 人の感想をお願いします。

副市長	<p>過去 10 会場並びにこの会場でも、市民の皆さんから、「これまでの行政運営に関してうまく伝わっていない部分が多いこと」に対する不満の声がたくさんありました。また、今回の発表についても、まだまだ不安を払しょくするような説明ができていないと感じております。</p> <p>まずは、来年度の赤字見込み 3 億円を解消して黒字転換する、そして次の世代の人たちがしっかりとこの地で生活したい・子供を育てたいと思えるような明確なビジョンを発表できるよう取り組みます。また、少しでも早く富津市のイメージアップにつながるように、そして日々何かいいことがあったら一つ一つしっかり訴えて参りたいと考えています。</p>
総務部長	<p>この説明会を通じて、市民の皆さんの考えていることが率直につながっていると思えました。また、地区による意見もありました。ありがたいことに多くのご提言もいただきました。そういうものをしっかり受け止めながら頑張っていきたいと考えております。</p>
企画財政部長	<p>市民の皆様の意見をお聞きして、これまでの財政運営をより厳しく見直さなければならないと思います。また、広報やホームページで周知しているところですが、皆様へのより一層の情報提供という説明責任を感じています。</p> <p>市の財政を預かる身として、編成中の来年度予算の赤字解消を第一歩として、今後も収支改善に取り組みます。</p>
(市民⑧-11)	<p>地震による東電の事故や景気の波によって財政がだいぶ苦しくなったと説明がありましたが、東電から入る固定資産税は年々減るものですか。</p>
企画財政部長	<p>近年は大規模な設備投資がなく、東日本大震災以降はより一層抑えられています。発電設備などは償却資産となりますが、平成 30 年度までは設備投資の予定がないという情報がありますので、固定資産税としては年 2～3 億円ずつ減収となる見込みです。</p>
(市民⑧-12)	<p>私たちの建物の固定資産税の税率は同じですが、3～4 年の評価替えて税金は下がっていきますか。</p>
企画財政部長	<p>税率は 1.4%です。評価替えは 3 年ごとに行い、見直されます。</p> <p>(市民⑨)</p> <p>最後の説明会の会場であるこの吉野は、前市長の居住地です。前市長は緊縮財政ながらも、何とか財政再建しようと努力していました。その後、現市長に交代して今日を迎えたわけですが、突然大きな問題を自ら公表したということは、市長の心境に相当胸打つものがあったのではないかと思います。</p> <p>この富津から人々が流出することは、行政にひとつの欠陥があった</p>

<p>企画財政部長</p>	<p>のではないかと思います。</p> <p>まず、当初予算があつて決算審査を経る流れがあると思いますが、そのなかで大きく変わっている点がありますか。</p> <p>2 点目として、この財政状況を改善するために経営改革会議の構成メンバーについて、これはあくまで行政サイドであつて、市の総意を汲むには多くの市民の皆さんから話を聞く必要があると思います。</p> <p>ここで、今後の行政運営の在り方を副市長にお聞きしたいです。</p> <p>予算については、過去・未来の状況・情報を入れながら組むなかであくまで見込みとなります。予算に対して国などの制度が変わるとか、財産の売り払いが予定に満たないなどによって予算と決算に食い違いが生じています。</p> <p>今後は、より確実な情報を参考にしながら、確実な予算をしっかりと組まなければならないと考えています。</p>
<p>副市長</p>	<p>11 回の説明会のなかで、大変貴重な市民の皆さんの声を聞かせていただきました。経営改革には、こうした声を大いに参考にして、少しでもこの説明会をやってよかった・参加して良かったと思えるようにしたいところであり、今後は、こうした問題だけでなく、いろんな機会でも市民と市長の意見を交わす場面を作り、その意見を行政に生かしたいと考えています。</p>
<p>(市民⑩)</p>	<p>はじめに、このような報道について、定例記者会見で公表した事項が発表されたことは理解しています。マスコミの活用は「知る権利」のうえでも非常に重要なことで活用してほしいですが、全国の皆さんに誤解を与えてしまったのは残念です。9 月 23 日のテレビ朝日の番組では歳出に対する人件費が 23.5%です。対して館山市は 17.1%で、同規模自治体でも人件費の割合が違います。館山市の財政力指数は 0.58 で県内 54 市町村のうち 31 番目です。一方で富津市は 0.96 と県内 7 番目の高さです。にもかかわらず人件費が 6.1%も違うということは職員数が多いということです。</p> <p>説明では職員削減を掲げていますが、市職員は市民の福祉向上に直結する重要な資源ですので、新陳代謝をすすめて、市民サービスを低下させることなく改革していただいて魅力あるまちづくりと一緒に進めていってほしい、難局を打破してほしいです。</p>
<p>総務部長</p>	<p>館山市と富津市について、人件費の割合はその通りですが、館山市は消防職員が安房郡市の消防組合で賄っていますので、市としてはいません。富津市は単独で消防本部を持っていますので、消防職員がいます。仮に消防職員をカウントしなかった場合は、館山市とほぼ同じになります。職員数については削減の方向で進めております。</p>
<p>(市民⑩-1)</p>	<p>地元である大貫駅周辺の開発はいくらかかりましたか。</p>

<p>企画財政部長</p> <p>(市民⑩-2)</p>	<p>国の交付金を活用して、周辺道路・地下道の整備を進めました。申し訳ありませんが、投資総額がわかる資料は手元にありません。</p> <p>約 5,000 万円かかっていたと思います。また、正月の門松カードが経費削減で廃止されると聞きましたが、それによる削減額はどの程度ですか。</p>
<p>企画財政部長</p> <p>(市民⑩-3)</p>	<p>予算の査定で目は通しておりますが、たびたび申し訳ありません。こちらにも手元に差額の分かる資料がありません。</p> <p>数百万円という規模になるのでしょうか。今回の報道で、大きなイメージダウンがあったと思います。それに対し、若い人が家を建てようとなると、よほど富津市が好きな人かただのバカしか残らないと思います。その責任は誰にあるのか、3～4 回、説明会に参加しましたが、一向に答えが見えてきません。この説明会でさえ途中で帰る人がいるということは、富津市自体もそうになっていくのではないかと危惧しています。</p>
<p>市長</p> <p>(市民⑩-4)</p>	<p>イメージダウンをさせてしまったことについて、報道発表のなかできつい言葉が出てしまいました。これについては、記者会見を開いた私の責任になりますので、心から市民の皆さんにお詫び申し上げます。一刻も早くイメージアップができるような取り組みを進めたいと考えています。</p> <p>石破茂氏が地方創生担当大臣になりましたが、そのモデル市になるという考えはありますか。</p>
<p>市長</p> <p>(市民⑩-5)</p>	<p>地方創生について、国から具体的に示されたことはありませんが、現在アポイントを取っており、大いに活用できればと考えています。</p> <p>アポイントを取っているという認識でいいですか。</p>
<p>市長</p> <p>(市民⑩-6)</p>	<p>既にアポイントを取っています。</p> <p>前の 3～4 回の説明会も参加するなかで、若い職員が一生懸命マイクを持って走るなか、他の年配の職員の方々はずっと腕組んで、ニヤニヤ笑っていて、そういうのを全部見えています。そういう人たちを雇っている執行部の皆さんはどう思いますか。会見の場でそういう人が実際にいます。</p>
<p>市長</p> <p>(市民⑩-7)</p>	<p>大変申し訳ありません。</p> <p>私が見たケースとして、若い職員がきちんと起立していたところに、別の職員がお尻に蹴りを入れてふざけていました。</p>

市長	私は把握していませんが、そのような職員がいたことは至極残念です。
(市民⑪-8)	そんな感じで緊張感がありません。若い職員は一生懸命やっていて、かたや議員と談笑しています。緊張感がなければ答えも曖昧で、出るべき答えが出ないのが市長さんの答えになると思います。
市長	十分に注意・監督いたします。ご指摘ありがとうございました。
(市民⑫)	説明会を通じて、市長・市幹部の考えを聞いて帰ればと思いましたが、ところが、「3億円の赤字解消・破たんをさせない」というような、抽象的な発言ばかりです。「経営改革を行います」ことと、5つの項目が書いてありますが、市長・市幹部は具体的にどう考えているのかを聞いて、納得して帰りたいです。経営改革会議に諮ることも必要とは思いますが、一部分でもいいのでお願いします。
市長	例えば、公共施設のうち広域で使えるものは市単独ではなく、近隣市と共同で使うことで、負担金をいただければと考えています。職員数削減については、色々なお話を聞きますが、定年・勸奨退職の人数に対して職員採用を抑えることで相対的に減らしていきます。ただし、それによって市民サービスに滞りが発生しないよう職員の質も向上させていきますので、そのように進めたいと考えています。
(市民⑬-1)	議会だよりを見たところ、企画財政部長は、松原議員の質問に対し、富津市の財政は上から8番目だと答えていますが事実ですか。
企画財政部長	今年の数字で申し上げますと、財政力指数は上から7番目というのが最新の情報です。
(市民⑬-2)	総務省に提出している「千葉県財政ランキング」でも上から7番目とありますが、これも事実でしょうか。
企画財政部長	財政力指数ということであれば、上から7番目になります。
(市民⑬-3)	夕張にはならないとのことですが、ではなぜ県庁所在地の千葉市よりも財政力指数の高い富津市がなぜこのような状況に陥っているのですか。「夕張にならない」と言っていればいいたろう、と思っているのですか。
市長	財政再生団体になる数値について、中期収支見込みのまま推移するとその状態になる、すなわち破たんになる可能性があるということで、記者発表で申し上げました。夕張が云々ではなく、財政再生団体の例として夕張市を挙げたということなのです。

<p>(市民⑬-4)</p>	<p>今日もマスコミの方が来ています。NHKの方は「この富津市の状態が面白いから」と言っていました。NHKに嘘交じりの報道をされると困ります。富津市民はNHKによって破たん追い込まれてしまいます。</p> <p>副市長にお聞きしますが、市長が記者会見を開いたことで、新聞・テレビ・週刊誌のネタになることは想像していましたか。</p>
<p>副市長</p>	<p>先の説明にもありました通り、改革を始めるという内容の記者会見を発表しました。そのなかで、夕張や破たんという言葉が出たのは事実ですが、そのクローズアップが、私の想像をはるかに超えてしまったところではあります。</p>
<p>(市民⑬-5)</p>	<p>テレビに向かって、「夕張とは比較にならない」と言ってください。そして、あの発表は私たちの勘違いでしたと、もう一度記者会見を開いて訂正する考えはありませんか。それがいちばん富津市民のためになると思います。</p>
<p>副市長</p>	<p>記者会見では経営改革に取り組む旨の発表をした通り、この説明会も市民の皆さまに経営改革の内容をお伝えしたい、何もしなければ現状は厳しいので、経営改革を始めますという趣旨です。本日はマスコミの方もおりますが、夕張のようになっているわけではないということをご理解いただいていると思います。</p>
<p>(市民⑬-6)</p>	<p>では、あなた方は意図的にマスコミの餌になることを覚悟して発表したのですか。</p>
<p>副市長</p>	<p>ここまでクローズアップされるとは考えていませんでした。私たちの意図しない所とはいえ、日本全国で富津市がこのような扱いをされてしまったこと、そして皆さまに不安を与えてしまったことについては心からお詫び申し上げます。</p>
<p>(市民⑬-7)</p>	<p>先ほど、石井副議長が新聞記事を前の人たちにも渡したいということで渡しました。この朝日新聞の記事を見て、市長はどう思いますか。</p>
<p>市長</p>	<p>これは、柏や松戸の方から仮置き場の関係で、最終処分場は国が作るんだと千葉県に話をしたということで、先ほど私が申しあげましたが、指定廃棄物の最終処分場についての市町村長会議のなかで、千葉県に1カ所作るという話がありますが、仮置き場は来年の3月31日までと約束しているところだが延長しなければいけないということで、副知事が環境省に早期設置の要望を出したというように思います。</p>
<p>(市民⑬-8)</p>	<p>私はこの記事を見て、設置自治体への財政支援という文言がいかにも今回の財政危機と結びついているように思います。夕張とあおって、財政支援もやむなしというような考えはありませんか。</p>

<p>市長</p>	<p>そのような考えは毛頭ありません。</p>
<p>(市民⑬-9)</p>	<p>分かりました。それについては安心しました。しかし、あなた方の態度や今までやってきたことに対する信用は 1%もありません。もし、あなた方に誠意があるなら環境大臣・副大臣に「富津市は指定廃棄物も、それに対する財政支援もいらない」と、文章で提出してもらいたい。それを、ここにいる人だけでなく、市民の皆さんに手続きの経過と回答文を出してください。その約束はできますか。</p>
<p>市長</p>	<p>先の市町村長会議で、「既に市産業廃棄物処分場が 2 つもあるので、これから先についても最終処分場は必要ない」という文章を出しています。環境省への文書提出については、県と協議のうえ、提出したいと考えています。</p>
<p>(市民⑬-10)</p>	<p>その際は、市長・副市長・市議員・区長の連名で提出してください。1 人や 2 人の名前では、その人が辞めてしまえば終わりです。</p>
<p>市長</p>	<p>提出する際に連名するメンバーについては、検討したいと思います。</p>
<p>(市民⑬-11)</p>	<p>税金を腹いっぱい食っている人達に責任を取ってもらわないと困ります。何のために税金を納めているのかわかっていますか。市議員の方もやってもらえますか。</p>
<p>市長</p>	<p>議会にもお話します。</p>
<p>(市民⑬-12)</p>	<p>結果がいつになるかわかりませんが、のりくらりで、いつの間にかごみ捨て場になったら困りますので、できるだけ早くやってください。</p>
<p>(市民⑭)</p>	<p>手始めに 3 億円の赤字見込みを解消するとのことですが、区長は準公務員で、市職員の皆さんと同等の立場になると思います。木更津市では、3,600 万円を 2,230 万円に削減しました。富津市で一番もらっている区長の手当は約 126 万円にもなります。一番多い方は 922 世帯を抱えていて、15 万 5,000 円の固定分と、1 世帯につき 1,200 円とあるので、約 126 万円になります。君津市では 1 世帯につき 600 円です。 これについての副市長の感想と、先ほどの夕張の発言について、市役所に行くと、「あれは上の人が言っているのであって、ウソなので僕らも困っています。」と言っていました。それでしたら、市長は「違う」と回答したらどうですか。もし、事実なら市議員の皆さんは何をしていたのですか。知らなかったのですか。それなら市議員なんていらないと思います。一人でもここに残っていたら返事してください。</p>
<p>副市長</p>	<p>区長に対する報酬が他市に比べて高いということに対してお答えし</p>

<p>(市民⑮)</p> <p>市長</p>	<p>ます。確かに、他市に比べて 1 世帯あたりの報酬が高いと改めて認知しました。また、改革のなかで、これに手は触れないのかと質問をいただいておりますが、その時にお答えしたとおり、「聖域なき」ということで、最初から触れないということではありません。</p> <p>先ほどの指定廃棄物の件について、電源三法交付金があり、高レベルの放射性廃棄物を受け入れると 10 億円の交付金が出るということで、この財政状況なので気になったところです。これは検討事項に入りますか、それとも断固拒否と言っていただけるのかははっきりしてください。</p> <p>先ほどから申し上げている通り、指定廃棄物については、建設または候補地としては拒否します。</p>
<p>(市民⑯-1)</p>	<p>この関連で、市長だけが約束をしてもだめです。ころころ変わる可能性があるので、条例や憲章に明記してください。</p> <p>それから、現実的に依命を受けた要請を強く望みます。実現不可能な夢のようなスローガンを掲げるのではなく、市の手の空いている職員を使って、「持続可能な～」のくだりの文章に書き換えてもらうくらいの態度を示してほしいです。</p> <p>また、中期収支見込みについては、そもそも赤字になるような予算を組むということがおかしいのではないかと思います。</p> <p>さらに、経営改革会議の手当てとして予算をとっている 50 万円は、1 回の会議ごとなのか、回数にもよりますが、これは庁議メンバーや市議員が本来やるべき仕事ですから、その方たちが賄うべきだと思います。</p> <p>また、区長の話に関連しますが、市長に責任があるということは、選んだ市民にも責任があります。富津市の過去の選挙を見ても、公平に行われていたと思う人は少ないと思います。富津市には 104 の行政区があります。先の市長選で、区長に佐久間市長の後援会からリーフレットが配布され、大半の区長は何の疑いもなく協力しています。何の疑いも罪の意識もなく協力してしまう土壌は、強力な行政区があるからです。104 の区には 104 の区長が非常勤公務員として委任されています。その手当もずば抜けて高額です。これが市民サービスに結び付いていれば、金額は問題にしません。</p> <p>区長は非常勤公務員であり、報酬も貰っているなかで、その地位を利用して選挙をすることは公職選挙法で固く禁じられています。この違反を見過ごして将来の富津市はないと思います。</p> <p>行政区が市民のやる気をそいでいることを訴えます。市長に言いたいのは、タブー視されている行政区にメスを入れてほしいということです。これを、市民の自由な意思に基づいた団体にしてほしいです。そういった自治区・自治会を作って、市長・市議を選ぶ土壌を作ってほしいです。そうでないと監視する人もおらず、財政運営はできません。市長を含め、監視できない人が選ばれるわけです。区長制度は市</p>

	<p>民のやる気をそいでおり、ただ給料をもらって動いているだけです。そういう状態で活性化は求められません。司会者の方はどう思いますか。</p>
<p>総務課長</p>	<p>まったく関係ないということはないと思います。ただし、今日の説明会は財政状況と経営改革についての話になります。</p>
<p>(市民⑩-2)</p>	<p>財政状況の根本責任は私たちにありますが、行政区という悪政をしているのはあくまで市です。そこにメスを入れて、任意的な町内会・自治会を助成していただきたいということです。</p>
<p>市長</p>	<p>行政区については、それぞれの地域の生活単位であり、区長は、非常勤公務員として日頃の市政の連絡調整をお願いしています。区長と他の区役員で役割があると思います。市役所に直接出てきていただき、連絡・調整をさせていただいているのが区長になります。また、市内の何カ所かの区は法人として自治会を設立しているところもありますので、区のあり方としては、それぞれの成り立ちがありますので、それぞれの地域において、活動の仕方があると思いますので、ご理解いただきたいです。あくまで、各区から名前が挙がりますので、市はそれを受けてお願いしているところです。</p>
<p>総務課長</p>	<p>最後に、市長の方からご挨拶を申し上げます。</p>
<p>市長</p>	<p>夜分遅くまで皆さん方には、お集まり、ご出席いただきまして誠にありがとうございました。皆さま方から、大変なご叱責をいただいているところがございます。皆さま方からいただいたご提案、あるいはご指示につきましては、また胸にしっかりと受け止めて、今後何とか早く赤字が解消できて、富津市のイメージダウンがふっ拭されますように、皆さんと共に、また、職員と共に私が先頭になって進めて参りますので、今まで以上のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。御礼の言葉にさせていただきます。</p> <p>ありがとうございました。</p>
<p>総務課長</p>	<p>以上で説明会を終了させていただきます。</p>

以上